

学校法人塚本学院  
大阪芸術大学短期大学部  
機関別評価結果

平成22年3月18日  
財団法人短期大学基準協会

## 大阪芸術大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 塚本学院
理事長名	塚本 邦彦
学長名	塚本 邦彦
ALO	原 光代
開設年月日	昭和26年4月1日
所在地	大阪府大阪市東住吉区矢田2-14-19

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英米文化学科		40
経営デザイン学科		30
保育学科第1部		100
保育学科第2部		20
デザイン美術学科		140
広報学科		120
	合計	450

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	保育専攻	20
専攻科	デザイン美術専攻	30
	合計	50

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
通信教育部	保育学科	1000
通信教育部	デザイン美術学科	150
通信教育部	広報学科	100
	合計	1250

## 機関別評価結果

大阪芸術大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 20 年 7 月 22 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

戦後いち早く、教育によって健全な文化人を育成することを使命として、平野英学塾開設からスタートした当該短期大学は、現在、四年制大学、専門学校、幼稚園を併設している。時代の要請、推移とともに、建学の精神を「人間尊重の精神」、「外国語教育と国際化への視座」、「実学と学問の有用化」、「自由の精神の徹底」、「芸術との出会い」の五つの柱から成る教育理念として結実させ、英米文化学科、保育学科、経営デザイン学科、広報学科、デザイン美術学科、保育学科第 2 部、通信教育課程と幅広い学科を有する短期大学として発展してきた。

教育内容は、教育理念の五つのキーワードを反映した教育課程が編成されている。

専任教員数、校地・校舎面積、図書館についても短期大学設置基準を満たしている。教育目標の達成度と教育の効果については、授業評価アンケートを行い、結果は公表し、それを授業改善に役立てている。就職に関しては全体として良好である。

学習支援活動では、基礎学力不足の学生に対して各学科の教員が個別に対応している。短期大学独自の奨学金給付、学生相談室及び医務室における専門職員の常駐など学生生活支援体制が整備されている。就職委員会と就職課が整備されていて学生の就職を支援している。進学についても対策講座などが開催されている。

教員の研究に関しては配慮がなされており、教育研究経費比率も高い水準にある。当該短期大学としての特色を生かした研究や社会活動も行われている。

社会貢献活動を研究活動、教育活動と並ぶ短期大学の機能としてとらえ、明確に位置付けている。

大阪と伊丹に校舎は分かれているが、それぞれの校舎に図書館、体育館、事務室を備え、校舎、機器、設備は充実している。

寄附行為の規定に基づいた組織が確立され、管理・運営にかかわる組織の機能的な役割分担が明確になっており、理事長、学長のリーダーシップが適切に発揮されている。学校法人として学院運営にふさわしい十分な資産は持ち合わせている。

現在、校舎が 2 ヶ所に分かれていることによる効率面の改善や、学科の再構築等に着手

しつつあり、また、併設の大阪芸術大学の隣接地に当該短期大学を移転、集約し双方の連携を強化することも計画中である。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生による授業評価アンケートの結果は、学科ごとの集計結果のグラフ及びアンケート結果に対する学科の見解、具体的な改善策をポスターにして公表している。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生のメンタルケアやカウンセリングの体制が充実している。常勤のカウンセラーと常勤の看護師がおり、学生の心身の健康管理を行っている。さらに、精神科医が専任教員と兼務しており、連絡を取り合いながらきめ細かな対応を行っている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- 日韓三大学美術デザイン交流展に毎年参加、日中交流作品展に隔年で参加、大阪芸術大学グループとの間で毎年、ミラノインスティテュート（学生作品の交流展）を開催するなど海外教育機関等との双方向的交流をしている。
- 広報学科・デザイン美術学科が学科の特色を生かして、毎年、伊丹市内の市立中学校にて「トライやるウィーク（兵庫県発表事業）」として絵画・粘土・陶芸・コンピュータグラフィックスなどの制作教室を行い、地域の中学校と効果的な交流活動を行っている。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスについては、設置学科単位に分割して、記述方式の統一を図り、単位認定基準を明確にするなど、更に分かりやすい構成にするよう改善が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務の安定のために、余裕資金はあるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスの改善が望まれる。

**(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

戦後いち早く、教育によって健全な文化人を育成することを使命として学院を創設し、その精神を五つの柱として教育理念に結実させ、各学科に対応する教育目的・教育目標として掲げている。それらはウェブサイトや短期大学案内、学生便覧等の印刷物にも明示されガイダンスや授業においても説明されている。また、毎年大学評価委員会等において点検もなされている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

設置学科は、教育理念に掲げる五つの柱に基づき、各学科の特色が反映された教育課程を編成している。各学科の授業形態や必修・選択科目のバランスは適切で、学科によってはコース制を設けたり、少人数クラスを編成したりするなど、学生の多様なニーズにこたえうる教育課程といえる。学生に配布する冊子も丁寧に作成され、ガイダンスの期間も十分に設けられている。

学生による授業評価アンケートについては、学科ごとの集計結果のグラフやアンケート結果に対する学科の見解、更には具体的な改善策をポスターにして公表している。ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については、教員相互の授業参観や授業方法の研修会を実施する取り組みについても現在検討が進められている。スタッフ・ディベロップメント（SD）活動が実施されていないことから、早急に始動することが望まれる。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数、校地・校舎面積は、短期大学設置基準を満たしている。また、障がい者への対応としても整備の努力が図られている。教室、機器・備品の整備状況についてもおおむね良好である。学科の特性に応じて、教育活動に必要な非常勤副手が配置されており、授業が効率的に進められている。図書館については、二つの校舎にそれぞれ整備されており、学生数に対して十分な蔵書数、サービス内容を有している。特に、伊丹校舎図書館では地域住民への開放も行っている点が特徴的である。

教員の年齢構成に偏りがみられ、年齢構成のバランスが今後の課題である。また、教員間の担当コマ数にばらつきが見受けられるが、総合的にみて教育の実施体制は整備されている。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定、学習評価は、適切に行われており、授業評価アンケートの結果を授業改善に役立てることによって、学生の満足度にも配慮している。退学者の割合は、平成 19 年度に比べて平成 20 年度は減じており、指導の実績をあげている。各学科の主要な資格取得については、おおむね高い取得率を維持しており、教育目標の達成への努力が認められる。

保育学科、経営デザイン学科の専門就職率は、高水準を維持している。卒業生の就職先からの評価は、就職先への訪問時に、教員が個別に聴取することによって得ている。同窓会を通して卒業生との情報交換は活発に行われている。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援は、短期大学案内、学生募集要項、ウェブサイト、キャンパス見学会、入学後のガイダンス及びフレッシュマンキャンプなどを通して適切に行われている。学習支援のためのガイダンスは、入学時及び年度初めに適切に行われている。基礎学力が不足する学生に対しては、教員が個別に対応している。

短期大学独自の奨学金給付、学生相談室及び医務室における専門職員の常駐など学生生活支援体制が整備されている。年に一度学生生活満足度調査を実施して、学生の意見や要望を聴取している。就職については、就職委員会と就職課が支援を行っており、不況の影響を受けている学科もあるが、全体としては十分な水準の内定率を得ている。進学に対する支援は、対策講座の開催など様々になされている。留学生に対しては、学習支援として日本語教育の実施、生活支援として授業料の 30 パーセント減免を行っている。

#### 評価領域Ⅵ 研究

研究紀要の発行、学内研究発表会やデザイン美術学科の「スタッフ展」の開催等によって、教員の研究成果発表の機会が確保されている。また、教員の研究時間も十分に確保されており、研究費の面でも、個人研究費のほかに「塚本学院教育研究補助費」等の制度を運用することによって研究活動の活性化が図られている。個人研究室、合同研究室、グル

ープ研修室等の整備状況も良好であり、教員が研究活動を行うための条件はおおむね整備されていると判断される。

ほとんどの教員が、何らかの形で研究活動を行っており、一定水準の成果をあげている。また、担当授業科目に関する共同研究も行われている。ただし、科学研究費補助金等の申請・採択の実績が乏しく、今後、外部研究資金の獲得への努力が求められる。展覧会、演劇等の公演、リサイタルなど、マスコミや社会で注目を浴びる業績の多さが、当該短期大学としての特色となっていることが認められる。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

社会貢献活動を研究活動、教育活動と並ぶ短期大学の機能としてとらえ、明確に位置付けている。社会人入学試験を実施して、社会人を受け入れている。地域の行政機関と連携して市民大学セミナー、公開講座、公開講演会などを開催している。高大連携も実施している。地域社会の行政、教育機関、文化団体等と効果的な交流活動を行っている。学科の専門性やクラブの特色を生かして、社会的活動を行っている。留学生の派遣としては、短期の海外研修を行っている。日韓三大学美術デザイン交流展に毎年参加するなど、海外教育機関等との双方向的交流に意欲的に取り組んでいる。教職員の留学、国際会議出席は過去3ヶ年にはないので、今後は奨励することが望まれる。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

私立学校法及び学校法人の寄附行為の規定に基づいた組織が確立され、管理運営に係る理事会、常務会、評議員会など相互の機能的な役割分担が明確になっている。また、学校法人の運営全般では理事長のリーダーシップが、当該短期大学の運営においては学長のリーダーシップが、それぞれ適切に発揮された管理運営が行われている。教授会は教育研究上の審議機関として運営されており、教学に関する審議プロセスや手続きは適切に行われている。事務部門は、学校法人と教職員、教員と職員の関係が密接で、それぞれ連携・協調できる管理体制が構築されている。全体としては、組織の整備、人的・物的整備や管理、規程の整備など適切に行われている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

予算は教育、研究、その他の学事計画を基に作成しており、財務部で予算原案を作成し、常務会、理事会、評議員会で審議の上、確定している。この予算は、経理規程にのっとり適切に執行されており、財務・経理・出納の各業務は必要な承認手続きが行われ、おおむね適切である。しかし、学校法人の教育計画と財政の見通しに基づいた中・長期計画が明記されておらず、その策定が望まれる。監事、公認会計士の監査機能は有効に働いており、学校法人の財務運営は適切と判断できる。

当該短期大学の消費支出比率は支出超過となっている。学校法人全体も消費支出比率は支出超過となっている。ただし、学校法人として運営にふさわしい資産・余裕資金を十分

に持ち合わせており、消費収支面の改善に努めている。

当該短期大学の施設の安全対策、省エネルギー対策、省資源対策、環境保全は配慮がなされ、全学的な取り組みが行われている。

#### 評価領域X 改革・改善

自己点検・評価活動に全教職員が関心を持ち、関与、協力するという体制は構築されている。また、自己点検・評価への取り組みの中で改善やFD活動の推進への気運や議論も高まっており、評価結果を有効に活用し、更なる改善につなげようという意欲が感じられる。